

こんにちは、今回は、グリーンフケア、遺族語り合ひの会についてお話します。ビハーラ福岡では8年前から、本願寺福岡教堂に於いて、ご遺族の方に来ていただき、グリーンフケアという語り合ひの会をしています。

内容は真宗宗歌、勤行、法話、茶話会、仏教讃歌「み仏に抱かれて」「恩徳讃」を歌って終わります。

「人生は苦なり」とお釈迦様は言われました。苦とはなんでしょうか。お釈迦様は、思い通りにならないことと言われます。四苦八苦とよく聞きますが、四苦は皆様よくご存知の「生・老・病・死」です。では、残りの四苦は何でしょうか。

愛(あい)別(べつ)離(り)苦(く)、怨憎(おんぞう)会苦(えく)、苦(く)不(ふ)得(と)つ(苦)く)、五蘊(ごうん)盛(じょう)苦(く)です。一つ一つの解説はまたの機会にしまして、その残りの四苦で一番辛いのが、「愛別離苦」だと言われます。愛する人と別れなければならぬ苦です。

数年前発行されました、西本願寺前門主の著書「朝に紅顔ありて」にも書かれています。私たちが死を抱えて今日を生かされています。家族、知人が、病、事故などによる突然の死や、長い間看病を続け、薬石効なく往生された時、その時の虚しさや、やり場のない怒りや悲しさは、生きていく意味を失うほどです。

その辛さ、痛みはご本人しか分からないのですが、体験者同士で語り合うとき、慰めになるかもしれません。それぞれの、その辛い気持ちを語り合うことで、少しでも、その悲しみが和らぐことを願っています。

法話では、往相還相(おうそうげんそう)回向(えこう)のお話などもお聞きます。南無阿弥陀仏にご縁のあった方は、この世のいのちが終わった時、即、お浄土に生まれ、ご縁の方々のもとに帰って来られ、仏様としてそばにいて下さるという教えです。

死別の悲しみ、虚しさは、ご遺族の力を奪う反面、共に語り合うことで、精一杯生きてみようという力が戻ってくるものなのです。と、心理療法士さんからお聞きします。

そのよみがえる力を喚起する時、悲しみの中から生まれる力は、柔らかく粘り強く深いものだそうです。あなたも死別を縁として、共に老・病・死、世の無常に向きあってみませんか。

